

古関メロディーが生まれた町 川俣町

古関裕而が後に妻となる金子へ手記を書いた際に見ていたとされる館ノ山から見た景色



古関裕而が演奏したオルガン



川俣シルク



川俣シャモ



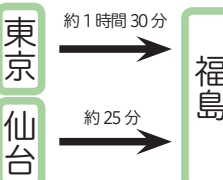
古関裕而が2年間下宿した元ちりめん屋

「作曲を志す町」より
著：古関裕而
目が覚めるとまず裏庭から
鶏の声が聞こえ、向かいの
鍛冶屋の槌の音が響いてく
る。私にとって川俣の朝の
音楽である。やがて町のあ
ちこちから箴の音が響き出
してくる。（省略）伯父の
家の向かい側に館ノ山とい
う小高い山があつて、よく
登っては白秋の詩等を読ん
だり、作曲したりした。私
のメロディーは福島と川俣
の風光から生まれたのだ。
私はこのような静かな町が
大好きである。」

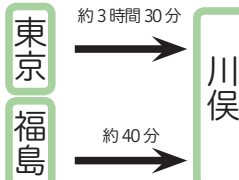
川俣町へのアクセス



新幹線



自動車



ぜひ、古関裕而ゆかりの地
がわまたにお越しください！



古関裕而 川俣町